

事業所における自己評価結果(公表)

公表:2025年5月

事業所名 ちあふるスクール樟葉西

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員分の個別ブース、オープンスペースを設けており、スペースを確保できています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		支援時間に送迎の出入りや保護者様の対応が重なることもあるため、送迎の段取りや取り組み内容を工夫して対応しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動スペースに入る前に階段があり、足の不自由な方は移動しづらい点がありますが、手すりを設置して安全にのぼっていただけるようにしています。また階段移動の際は、指導員も一緒に移動するようにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動スペースの子どもが触る場所は毎日拭き掃除などをして清潔にしています。最低でも一日一回の支援室内消毒を実施しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		情報共有の時間を設けて、その日に勤務する職員全員で支援内容や改善事項について話し合っています。支援時間でも、何かあれば都度共有しながら進めています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施して、改善事項があれば共有しています。保護者様からの連絡等あれば職員全体で共有し、対応方法等を話し合っています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		前回までの結果をHPで公開しており、今回の結果も集計後に公開する予定です。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて実施していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		運転の研修や強度行動障害に関する研修やその他各種研修を受ける機会があります。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者様からのアセスメントシートや、指導員からの共有情報、お子さんの様子から、支援計画を立てています。保護者様との面談の内容や記録をもとに計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者様などからの聞き取りにより事業所独自のシートを使い作成しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		日々計画書を共有し、児童に合った支援ができているか確認しています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員で話し合っ活動内容を決めています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方などを決めています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		その時の児童の状況、状態により、その都度プログラムを見直しています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動の計画だけにならないようコミュニケーションなどの小集団の計画も入れています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に職員同士で情報共有の時間を設け、内容や役割について確認しています。必ず前日の振り返りと当日の打合せを行い、どの指導員でも児童の支援をできるようにしています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の共有時に、前日の支援の振り返りについて共有しています。支援後に送迎がある兼ね合いもあり、当日に固定して共有時間は設けられていませんが、状況に応じて職員同士で個人的共有(困ったこと、お子さん同士のトラブル等)をし、翌日の共有の際に忘れず伝えるようにしています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援の記録を残すことはしているが、記録の細かな内容は職員ごとに任せています。日々の記録は専用ツールで共有し記録を残しており、随時確認できるようにしています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングにより、計画の継続、変更の見直しを行い、その都度保護者様からの要望があれば変更しています。	
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		今後も会議が開かれる際は積極的に参加し、その児童の状況をよく理解しているものを派遣します。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		ほとんどのお子様が地域の保育所や幼稚園に通われていることもあり機会を設けていません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		緊急性の高い共有事項は、すぐに保護者様へ連絡しています。事業所での取り組みや、その日の様子は送迎時やお迎えの際に口頭で伝え、詳細は活動記録を通じて伝えていきます。利用児童のご自宅の様子、医師からの診断書等も保護者様から預かったものは事業所内で共有しています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		事業所全体で支援内容、児童それぞれの個別の支援内容の説明を行っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今までは必要ないと言われる保護者様も多く開催していませんが、必要に応じて検討します。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々の記録を公開したり、周知したい内容に関してはHPやメール、専用ツールでお知らせしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の載った書類を持ち出さないようにしています。支援活動時に、児童が制作したデータは個人の保存データとして管理しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		研修のための資料を策定して職員に知らせています。緊急時対応、感染症対応等のマニュアルを作成し、職員間で話し合い、確認する機会を設けています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練や非常時の対応に関する研修を定期的に行っています。非常災害の発生に備え、実際に避難経路を移動しての確認や、発生時に取るべき行動や対応方法を説明し、確認しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面談や利用契約などの際に、保護者様から聞き取って対応しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談や利用契約などの際に、保護者様から聞き取って対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあれば報告書に記入しています。ヒヤリハットがあった際は報告書を作成し、事業所全体で共有し再発予防に努めています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束する場合がありますと支援計画に記載し、保護者様の了承を得ています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 2025年5月

事業所名 ちあふるスクール樟葉西

保護者等数(児童数) 1 回収数 1 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	1					
	2 職員の配置数や専門性は適切である	1					
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている					1	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている					1	
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	1					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	1					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	1					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	1					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある					1	
保護者への説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	1					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	1					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている					1	
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	1				もう少し家での様子など共有できる機会があるとありがたい。	送迎の際に少しでも保護者様と最近のお子様の様子などをお話できるようにいたします。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	1					
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	1					
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	1						

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	1					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	1					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている				1		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている				1		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	1					
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	1					
	23	事業所の支援に満足している	1					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちあふるスクール樟葉西		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1人1台パソコンを使用することができる。	1人1人のパソコンスキルに合わせて活動内容を考える。	定期的と同サイトでタイピングについて成果を確認できるような活動内容に盛り込んでいる。
2	パソコンを使った活動だけでなく様々な活動を提案する。	パソコンが活動でのクリエイティブ作品の作成ができる。	児童のスキル状況や活動進捗状況についてミーティング等での共有充実を図る。
3	大型モニターがあるため、作ったものなどの発表ができる。	季節や行事を感じる事ができる工作活動の提案。 年齢や特性に応じて少人数で交流できるボードゲームやルール遊びの実施。	教材は定期的に見直し変更を加えていく。 必要に応じて療育物品の選定を行い活用する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パソコンを使って遊べるという強い認識。	パソコン活動が中心で身に着くスキルなどについての認識を職員間で共有する。	パソコン活動で身に着くスキルなどについての認識を保護者へ伝えていく。
2	限られた活動スペース。	限られたスペースでできる活動内容を常々検討している。	長期休暇などは全体的な取り組みとして利用児童全員で行える活動の計画を検討する。
3	地域交流が少ない。	どのような場に参加して調整するかまだ検討が足りない。	今後の地域交流について、どのようにすすめていくか検討する。

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2025年5月

事業所名 ちあふるスクール樟葉西

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別ブース、オープンスペースの配置などを状況に合わせて変えています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		支援時間に送迎の出入りや保護者様の対応が重なることもあるため、送迎の段取りや取り組み内容を工夫して対応しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		活動スペースに入る前に階段があり、足の不自由な方は移動しづらい点がありますが、手すりを設置して安全にのぼっていただけるようにしています。また階段移動の際は、指導員も一緒に移動するようにしています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		情報共有の時間を設けて、その日に勤務する職員全員で支援内容や改善事項について話し合っています。それぞれが意見を言い合い、業務を見直すことを日常的に全職員で行うように努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施して、改善事項があれば共有しています。評価表を活用し、新しい取り組みなども取り入れています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		前回までの結果をHPで公開しており、今回の結果も集計後に公開する予定	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		必要に応じて実施していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		運転の研修や強度行動障害に関する研修、その他各種研修を受ける機会があります。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者様からのアセスメントシートや、指導員からの共有情報、子どもの様子から、支援計画を立てています。保護者様との面談の内容や記録をもとに計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者様などからの聞き取りにより事業所独自のシートを使い作成しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員で話し合っ活動内容を決めています。共有時間の際に職員で話し合い、お子さんが興味を持ってそうなこと、好きな物など意見を出し合いながら課題の進め方を決めています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		その時の児童の状況、状態により、その都度プログラムを見直しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		普段の放課後利用時と長期休暇では活動プログラムを少し変更したり、職員同士で話し合っプログラムを考えています。普段の取り組み内容に、期間限定でイベントを加えて支援しています。活動時間に合わせ、休憩時間を設けたり、取り組み内容を変更したりして支援しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動の計画だけにならないようコミュニケーションなどの小集団の計画も入れています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に職員同士で情報共有の時間を設け、内容や役割について確認しています。必ず前日の振り返りと当日の打合せを行い、どの指導員でも児童の支援をできるようにしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日の共有時に、前日の支援の振り返りについて共有しています。支援後に送迎がある兼ね合いもあり、当日に固定して共有時間は設けられていませんが、状況に応じて職員同士で個人的共有(困ったこと、お子さん同士のトラブル等)をし、翌日の共有の際に忘れず伝えるようにしています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			支援の記録を残すことはしているが、記録の細かな内容は職員ごとに任せています。日々の記録は専用ツールで共有し記録を残しており、随時確認できるようにしています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングにより、計画に継続、変更の見直しを行い、その都度保護者様からの要望があれば変更しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		自立、日常生活の充実、創作、地域交流、余暇、児童それぞれの姿を見ながら様々な支援内容を実施しています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		今後も会議が開かれる際は積極的に参加し、その児童の状況をよく理解しているものを派遣します。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時に関することや、予定に関することは適宜学校に連絡して確認しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在医療的ケアが必要な児童はいませんが、今後受け入れをする際は人員を配置して連絡体制を整えます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて、保護者様を介して情報共有をしています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所への移行は今までありませんが、今後移行がある際は支援内容を共有します。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		ほとんどのお子様が地域の学校に通われていることもあり機会を設けていません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		児童を自宅に送迎する際に保護者様がいる場合、その日の様子を伝えるようにしています。。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレントトレーニングの時間は設けていませんが、面談などの場で、提案をおこなっています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		事業所全体で支援内容、児童それぞれの個別の支援内容の説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		児童本人の悩み、親としての悩みなど丁寧に傾聴し、気持ちに寄り添った支援を心がけています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今までは必要ないと言われる保護者様も多く開催していませんが、必要に応じて検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があればすぐに職員間で共有し、迅速に対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々の記録を公開したり、周知したい内容に関してはHPやメール、専用ツールでお知らせしています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の載った書類を持ち出さないようにし、鍵付きの金庫に置いておくなどして、外部に漏れないようにしています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童とは非言語的コミュニケーション(ひらがな表、感情スケール表、ホワイトボード等)を使用しコミュニケーションを取ることがあります。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	招待はしていないが、近隣住民の方との繋がりを大切に、事業所や利用者の理解が深まるように努めています。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルを作成し、職員間で周知をしています。年間で訓練を行う際にマニュアル見直しも行っていきます。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練や非常時の対応に関する研修を定期的に行っています。非常災害の発生に備え、実際に避難経路を移動しての確認や、発生時に取るべき行動や対応方法を説明し、確認しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修を行っていますが、より理解が深まるよう研修機会を増やすように努めます。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束する場合がありますと支援計画に記載し、保護者様の了承を得ています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面談や利用契約などの際に、保護者様から聞き取って対応しています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがあれば報告書に記入しています。ヒヤリハットがあった際は報告書を作成し、事業所全体で共有し再発予防に努めています。	

放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表: 2025年5月

事業所名 ちあふるスクール樟葉西

保護者等数(児童数) 25 回収数 22 割合 88 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	4	0		施設に伺ったことが1度しかないためわからない	個別ブースやオープンスペースなど、お子様に合わせた支援を行えるように活動スペースを確保しております。通所後に活動スペースの見学なども可能ですので、遠慮なくご連絡いただけたら幸いです。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	15	7	0		先生がなんにんいてるかわかりません	適切に人員配置をしております。現状は、人員を増やして加配での配置となっております。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	15	1			
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	19	3	0			
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	20	2	0			
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	17	4		わかりません	地域の学校に通われているお子様が多いこともあり、ちあふるの活動としては現在実施しておりません。交流の場を用意できた際にはお知らせさせていただきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	18	4				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	17	5				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	9	1		利用期間が短いため、まだわかりません	面談の際に、必要に応じて支援を行っております。また面談の時間に関わらず、いつでもご相談お待ちしております。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	8	14		・どちらの施設でもまだむずかしい ・それほど活動に参加していないためわからない	実施しておりません。ご意見や必要性に応じて今後検討させていただきます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	6	0		苦情をしたことがないので不明	苦情があった場合、迅速かつ適切に対応いたします。また内容をお伺いして、今後苦情に繋がることがないように改善いたします。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18	4	0			
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	16	5	1			
14 個人情報に十分注意しているか	21	1	0				

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	17	4	1		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	5	0		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	18	3	1		
	18	事業所の支援に満足しているか	20	2	0		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちあふるスクール樟葉西		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1人1台パソコンを使用することができる。	1人1人のパソコンスキルに合わせて活動内容を考える。	定期的に同サイトでタイピングについて成果を確認できるような活動内容に盛り込んでいる。
2	パソコンを使った活動だけでなく様々な活動を提案する。	パソコンが活動でのクリエイティブ作品の作成ができる。	児童のスキル状況や活動進捗状況についてミーティング等での共有充実を図る。
3	大型モニターがあるため、作ったものなどの発表ができる。	季節や行事を感じるができる工作活動の提案。 年齢や特性に応じて少人数で交流できるボードゲームやルール遊びの実施。	教材は定期的に見直し変更を加えていく。 必要に応じて療育物品の選定を行い活用する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パソコンを使って遊べるという強い認識。	パソコン活動が中心で身に着くスキルなどについての認識を職員間で共有する。	パソコン活動で身に着くスキルなどについての認識を保護者へ伝えていく。
2	限られた活動スペース。	限られたスペースでできる活動内容を常々検討している。	長期休暇などは全体的な取り組みとして利用児童全員で行える活動の計画を検討する。
3	地域交流が少ない。	どのような場に参加して調整するかまだ検討が足りていない。	今後の地域交流について、どのようにすすめていくか検討する。